

ズにヒールカバーを着けて使用しても損傷は起こらないという話があり、許可していた。しかし、これが原因と思われる損傷が現れたため、体育館シューズ以外利用を制限した。受付窓口等に文書を掲示するとともに、広報誌やホームページに掲載して周知を行った。今後も、関係団体の代表者との協議を十分行っていきたい。

## 金藤照明議員

### 人口減少時代と超高齢社会について

**議員** 「高齢者が生きがいを持ち、安心して暮らせるまちづくり」を具体的に、どのような事業・取り組みをするのか。

**市長** 高齢者が住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるように環境の整備を行う。デイサービスやヘルパーの派遣事業などのサービスを提供する。

老人クラブやシルバー人材センターなどを通して、積極的に高齢者の社会参加を図るとともに、地域社会の担い手として支援する。島しょ部の介護、福祉サービスの支援について取り組む。認知症の早期発見及び支援を行うとともに認知症高齢者を支える組織づくりを推進する。

### 子ども読書環境のさらなる充実について

**議員** 電子メディア社会の中で、大人社会は今こそ書の復権と読書の復興に力を注ぐ必要がある。「私の心に残る1冊」運動を提唱す



るが、考えをたずねる。

**教育長** 工夫できないか検討していきたいと思う。本を通じて創意工夫を行う中で、より一層充実した図書館サービスの推進に努めていきたい。

### 地域力を高める「地域ブランド」について

**議員** 「笠岡ブランド」、「笠岡の魅力」についての所見をたずねる。

**市長** 胸を張って発信できるすぐれた財産を有している魅力あるまちであると自負している。この財産の一つ一つが笠岡としてのブランドであり、これらを組み合わせることで総合的に笠岡のイメージを高めることが必要であると考えている。

## 樋之津倫子議員

### 子どもの医療費給付制度改善について

**議員** 本市では、この10月



分していくかということもじっくり考えていく必要があるのではないかと考えている。

### がん相談支援センターについて

**議員** 医療連携体制や在宅療養支援体制の整備に努めるとしているが、市民の多くは県下にある相談支援センターの存在すら知らされていない。本市の広報の充実についてたずねる。

から入院に限り中学生までを対象として医療費の給付を改善するが、通院に関しては小学校3年生にとどまっている。人口増と町の若返りを図るために、今こそ中学校卒業までの対象年齢拡大に向けて検討する時期に来ているのではないか。

**市長** 現在は、さらなる医療費の引き上げについては考えていないが、今後も引き続き国や県に対して、制度の充実・拡充を要望していきたい。

**議員** 市は独自に対象年齢をさらに引き上げることは可能だと思いが、いかがか。

**市長** 本当に何が必要なか、限られた財源をどう配

**市長** 岡山県下では、がん患者やその家族などが、がん治療や経済的な問題などさまざまな相談をすることができるとしている。本市では、ホームページに専門医によるがん相談の情報を掲載しているが、相談支援センターの広報はできていない。今後、あらゆる機会をとらえて、市民に理解しやすい広報をしていきたいと考えている。